

血液をさらさらにする薬について

脳卒中は、かつて日本において死因のトップでしたが、食生活の改善や高血圧などの危険因子への対応が進んだ結果、現在は悪性新生物(がん)・心臓病・肺炎につぐ第4位となっています。しかし、脳卒中は寝たきり原因の第1位であり、一旦発症すると一命は取り留めても後遺症を抱えたりすることにより生活の質の低下をまねきます。

○脳卒中の種類

脳卒中は、血管が詰まることにより起こる脳梗塞と血管が切れて起こる脳出血、くも膜下出血に分けられます。

☆血液をサラサラにする薬は脳梗塞の発症あるいは再発予防に使われます。



○脳梗塞の種類

脳梗塞には、心臓の中に出来た血液の塊が心臓から飛び出して脳の血管に詰まる心原性脳塞栓と、脳の血管が動脈硬化により詰まるアテローム血栓性脳梗塞、ラクナ梗塞があります。

○心原性脳塞栓の原因疾患

最も多いのが心房細動で脳塞栓の75%を占めるとされています。その他に、心筋梗塞・心筋症・弁膜症などがあります。

○アテローム血栓性脳梗塞、ラクナ梗塞の原因疾患

高血圧・糖尿病・脂質異常症・喫煙・メタボリックシンドロームなどがあります。

☆脳塞栓と血栓性脳梗塞では、使用する血液をサラサラにする薬の種類が違ってきます。

心原性脳塞栓に使われる血液をサラサラにする薬

ワルファリンをはじめとする抗凝固薬が使われます。ワルファリンは、心房細動患者さんの脳梗塞を64%減少させるとされており、他の抗凝固薬も現時点ではワルファリンと同等の効果があるとされています。

薬品名(一般名)

・ワルファリン(ワルファリン)・プラザキサ(ダビガトラン)・エリキュース(アピキサバン)・リクシアナ(エドキサバン)・イグザレルト(リバーロキサバン)など。

アテローム血栓性脳梗塞・ラクナ梗塞に使われる血液をサラサラにする薬

アスピリンをはじめとする抗血小板剤が使われます。抗血小板剤は、脳梗塞の再発予防の目的で使われ、アスピリンの場合22%~32%の再発予防効果があるとされています。他の抗血小板剤も同等の効果があるとされています。

薬品名(一般名)

・バイアスピリン(アスピリン)・プレタール(シロスタゾール)・プラビックス(クロピドグレル)・エフィエント(プラスグレル)など。

血液をサラサラにする薬を服用する際の注意点

血栓ができるのを防止するために有用な薬ですが、血液を固まりにくくする作用のために出血しやすくなったり、一旦出血すると血が止まりにくくなります。この点を認識し、日常生活において十分注意して下さい。また、家族の方にも薬を飲んでいる事を知ってもらい、他院受診時には「血液をサラサラにする薬」を服用中の旨を必ず伝えるようにして下さい。

お困りのことや不安なことなど何でも当薬局にご相談ください